小岩スーパー堤防・街づくりを考える会ニュース Vol.153
「スーパー堤防・街づくりを考える会」
運営委員会　作成　２０１７.3.２４

18班地区の盛土に地耐力不足の欠陥が発生！引き渡し工期が延期に

国交省に原因の究明と,スーパー堤防の問題点の回答を求めて聞取りをしました。

不完全な地盤調査と進め方に問題が！

３月１３日（月）午後２時から参議院議員会館で、山添拓参院議員（共産）と住民が国交省に対して、スーパー堤防工事に欠陥があったことを指摘、その対応を求めて聞取りをしました。

これは１月の下旬、１８班地区の盛土で地盤の強度が基準に満たない（地耐力不足）ことが判明、地権者への引き渡しが延期となったものです。

盛土などで地盤を強化する場合、強度が不足すると地面が波打ったり、傾いたりする原因になり、建物も大きな影響を受けるという、非常に危険な欠陥工事でした。

それに対し、国交省は「宅地の地盤については、ご指摘の通りです」と事実を認めました。

以下、要点を報告します。

現時点の進捗率は？

事業が縮小計画された１２㎞となっているうち整備された区間は１２０㎞の区間のが、スーパー堤防の３０Ｈの基本断面が確保されているのは３・１㎞に過ぎず、進捗率は２・６％。これは会計検査院の苦言をも無視して工事を進めている結果です。

１８班の地耐力不足の原因は何か？

国は、８本のボーリング調査をしており、その結果問題はなかったと説明しましたが、その内６本は堤防部分で行われたもので、宅地となる部分での調査の欠落が指摘され、宅地側で２カ所のボーリング調査を追加しました。

基礎地盤内に地耐力不足が見つかったことは明らかにボーリング調査不足です。

しかも、盛土本体にも地耐力不足があったようですが、内容は明らかにされていません。

地耐力は国の管轄外？

国交省は、スーパー堤防は国の定めたマニュアルに従っており、宅地の地耐力については触れていない、ということで国の守備範囲外と言っているようでした。

今後の計画の見通しは？

江戸川、荒川、淀川と毎年３０～４０億円の費用を投下してきました（国交省）。

来年度以降の事業予定河川、費用等については決まっているが、明示できる段階ではない、としました。

その他、篠崎公園のスーパー堤防の中に道路を通す「ボックスカルバート」の危険性なども質しましたが、その方法をとるかどうかは検討中だ、としながらも、事業はどんどん進めている現状です。

以上、一部ですが報告いたします。

造成中の18班地区の地耐力不足の工事現場
（江戸川区まちづくりニュースより）

国交省担当官に質問する山添参院議員と、参加した住民・区議ら　（2月13日　参議院議員会館）